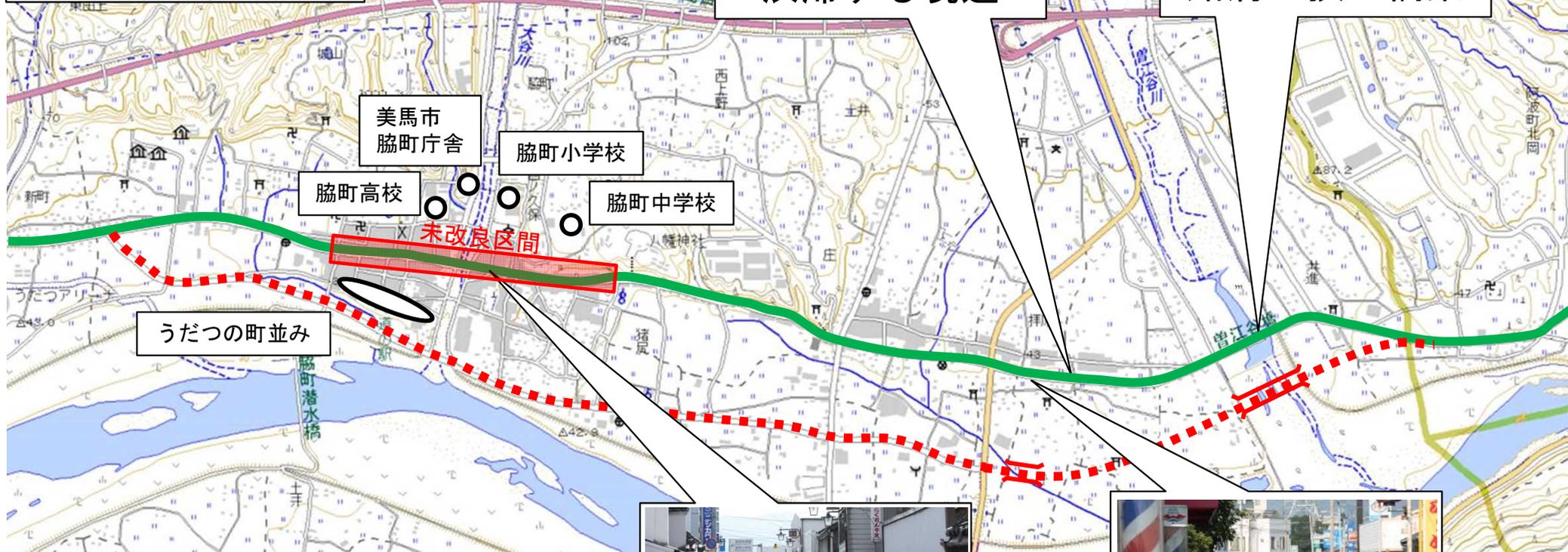


再評価【番号2】

主要地方道鳴門池田線
共進～新町工区

1. 現道の道路交通上の課題



課題

- 幅員狭小区間（1車線区間の存在）
車両の離合が困難
歩行者・自転車利用者の安全性の低下
- 歩道の未整備
児童等の通学の安全性の確保が困難
- 交通渋滞の発生
円滑な交通の確保が困難



2. 事業概要



幅員構成 (一般部)

幅員構成 (橋梁部)

凡例
 計画ルート :
 現道ルート : ————

西工区 L=3.3km (供用済)

東工区 L=1.8km (未供用)

緊急地方道路整備事業 (主) 鳴門池田線 (共進~新町) L=5.1km

3. 事業の進捗状況【東工区】



● **事業促進の問題点**

- ・ 約136m²の未買収用地あり
- ・ 境界紛争による買収の遅れ



新土井谷橋

西工区へ

R193
至 R192

新土井谷橋
橋長70.5m

土井谷川

新曾江谷橋（仮称）
橋長225.0m

曾江谷川

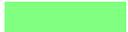
吉野川

県道 鳴門池田線(現道)
至 三好

県道 鳴門池田線(BP)

起点

至 鳴門

凡 例	
	: H23以前施工済箇所
	: H24~H28施工済箇所
	: H29施工箇所箇所
	: H30以降施工予定箇所
	: 未取得用地



新曾江谷橋



バイパス区間（起点側）

4. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

便益(B)

- ・ 走行時間短縮便益
- ・ 走行経費減少便益
- ・ 交通事故減少便益

計 **150.4億円**
(現在価値化後)

費用(C)

- ・ 事業費
- ・ 維持管理費

計 **118.1億円**
(現在価値化後)

$$B/C = 1.3$$

その他の便益(B')

医療

- ・ 救命率の向上効果

計 **68.2億円**
(現在価値化後)

66.9億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果
- ・ 騒音低減効果

0.6億円

0.7億円

(参考) $(B+B')/C = 1.9$

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

■ 緊急輸送道路ネットワークの強化
ネットワークの多重性（リダンダンシー）確保
⇒災害時の物資輸送等が効率化

■ 災害拠点、避難場所へのアクセス強化
各防災施設へのアクセスの向上
⇒地域防災力が向上

安全・安心

■ 通勤、通学路の安全・安心の確保
現道の交通がバイパスに転換
⇒現道沿いにある小学校等への安全・安心な通学が可能に

産業振興

■ 商業施設の立地促進
西工区バイパス沿線への商業施設の立地
⇒さらなる商業施設立地促進に期待

5. 道路整備による多様な効果①【貨幣価値換算可能な整備効果】

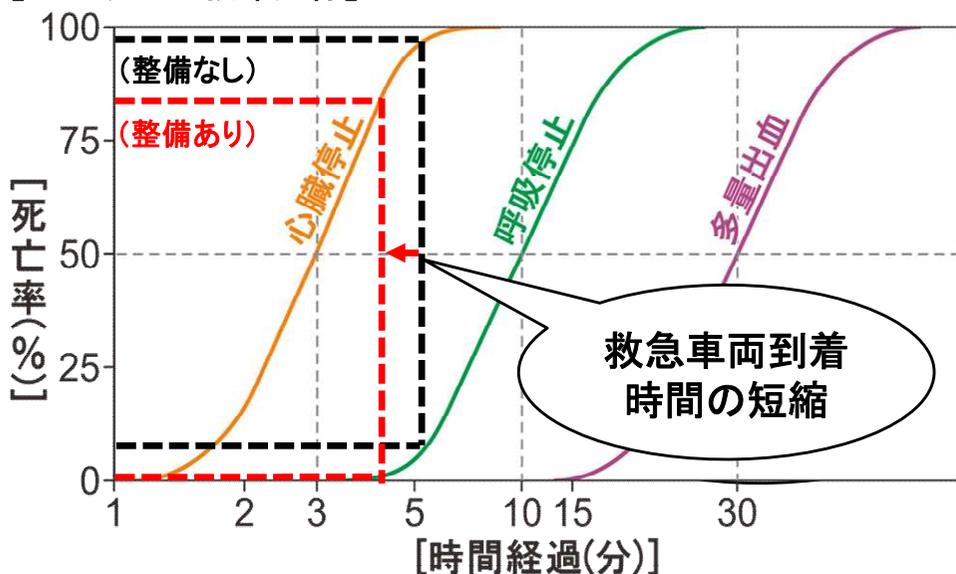
◎その他の便益

医療

■ 救急医療へのアクセス向上

- ・ 美馬市消防本部消防署から集落までの救急車両到達時間が短縮されることにより、救命率の向上が見込まれる。

【カーラーの救命曲線】



- ・ 心臓停止後の死亡率が約13%低減
- ・ 呼吸停止後の死亡率が約7%低減

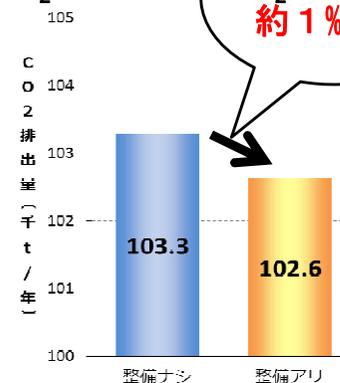
救命率の向上効果 : 66.9億円

環境

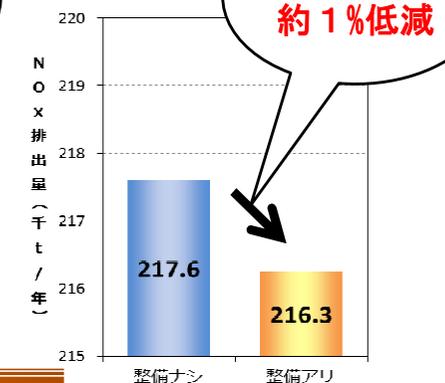
■ 地球環境の保全効果

- ・ CO₂、Noxの排出量が抑制されることにより、大気汚染・温暖化防止効果が見込まれる。

【CO₂排出量】



【NOx排出量】



大気汚染・温暖化防止効果: 0.6億円

■ 騒音低減効果

- ・ 現道の通過交通がバイパスに転換することにより、現道沿いの騒音の低減効果が見込まれる。

騒音低減効果 : 0.7億円

5. 道路整備による多様な効果②【貨幣価値に表れない整備効果】

防災・減災 ●効果：災害に強い道路ネットワークの構築

①緊急輸送道路ネットワークの強化

並走する徳島自動車道、国道192号を補完する第2次緊急輸送道路として、**緊急輸送道路ネットワークの多重性（リダンダンシー）を確保**



災害時の物資輸送等が効率化

②災害拠点、避難場所へのアクセス強化

工区周辺の災害対策用ヘリポート、2次救急医療施設、避難場所等へのアクセスが向上



地域防災力の向上



ホウエツ病院（ホウエツ病院HPより）



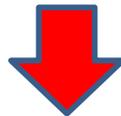
脇町吉野川河川敷グランド

5. 道路整備による多様な効果③【貨幣価値に表れない整備効果】

安全・安心 ●効果：地域の安全・安心の確保

①通勤、通学路の安全・安心の確保

西工区現道では、バイパス供用により交通事故が減少傾向



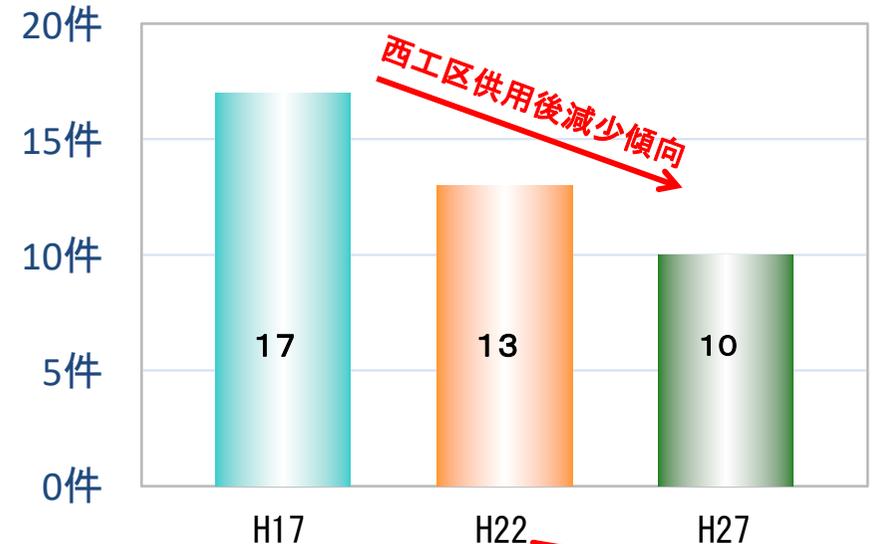
全線供用により、現道の通過交通がバイパスに転換し、交通量の減少に伴い交通事故のさらなる減少に期待



現道沿いにある小学校等への安全・安心な通学が可能に



【参考】西工区供用前後における国道193号西側現道区間の交通事故件数の推移



西工区供用後1年目

(参考)西工区供用前後における現道の年間平均交通事故件数
供用前 H17~H21：23件
供用後 H22~H27：19件



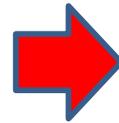
西工区供用前の現道の通行状況

5. 道路整備による多様な効果④【貨幣価値に表れない整備効果】

産業振興 ●効果：地域経済の活性化

①商業施設の立地促進

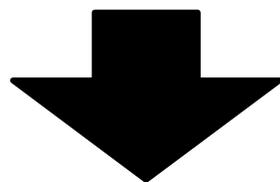
西工区沿線では、商業施設等が70店舗程度立地し、地域経済が活性化している。



東工区でも、商業施設の立地等、地域経済の更なる活性化に期待できる。



早急に未取得用地を取得し、事業の促進を図る。



事業継続